

* 立春も過ぎてもうすぐ春です。寒さに負けずに年度末を乗り切りましょう。

//// I N D E X //////////////////////////////////////

- ISO 情報-----
 - ISO14068 (カーボンニュートラルリティ) のドラフトがきました。
 - ISO59014 (二次材料) は毒にも薬にもなりません。
 - ISO59020 (サーキュラーエコノミーの測定) が要求事項を含むことになりました。
 - ISO14075 (ソーシャル LCA) はやはりまとまりが悪いです。
 - ISO14064-1 (組織の GHG) で削減貢献量の定義が慎重に議論されています。
- LCAF からお知らせ…「LCAF : LCA 初級検定」を 2023 年 2 月 4 日 (土) に行いました。次は、3 月 4 日 (土) に「中級検定」を実施します。
- 編集後記……………コロナはどこに? 3 年ぶりのパリです。

■ ■ ISO 情報 : LCA 関係の ISO の進捗 ■ ■

私がかかっている ISO 規格の 1 月の進捗を報告します。

○ISO14068 (カーボンニュートラルリティ)

1 月 25 日に新しい DIS が来ました。これがコメントを付ける最後の機会になります。この規格では、トランジションの間の GHG 排出量 (unabated emission) は、新しい技術で削減したカーボンクレジットで、また、最終的に残る GHG 排出量 (residual emission) は除去 (removal) で作られたカーボンクレジットでオフセットすることが認められています。これは、昨年改定された SBTi のオフセットの方法と整合しています。削減貢献量については、序文と付属文書 (Annex) に、組織の GHG 排出量に含めずに報告するという Scope3 基準での書き方が紹介されています。本文では無視されていますが、この規格ではこの書き方が賛同を得られる限界と思います。

○ISO59014 (Sustainability and Traceability of Secondary Materials Recovery - Principles and Requirements (「二次材料回収の持続可能性及びトレーサビリティ」と訳してみました。))

昨年 11 月のワーキンググループで CD にすることが決まって、各国のコメント募集中です。もともとが、アフリカ等で行われている電子電気廃棄物 (e-waste) からの金属の回収を健全な事業に導くことが目標の IWA19 なので、CSR の重要性が長々と書かれています。私が見るところ、二次材料に関する規格ではなくて、企業の社会性の規格です。廃棄物のエネルギーリカバリー (サーマルリサイクル) はこの規格の範囲外ですが、付属文書 (Annex) にその存在がしっかり書かれています。全体的に、企業にとっては当たり前のことが書かれているだけなので「毒にも薬にもならない」規格だと思います。

○TC323 (サーキュラーエコノミー) の最初の 3 つの規格、ISO59004 (用語と原則)、ISO59010 (ビジネスモデルのガイダンス)、ISO59020 (サーキュラリティの測定と評価) は、すでに DIS 投票が行われ、FDIS にするコメント処理の最中です。以前の LCAF 通信で「要求事項 (shall) は入れないという約束で議論してきたのですが、ISO59020 の中に shall を入れる提案がなされて投票中です。」と書きました。案の定、賛成多数ではありませんでしたが、この提案は通りました。今、どのように shall を入れるか議論が進んでいます。

○ISO14075 (ソーシャル LCA)

1 月 30 日 (月) から 2 月 2 日 (木) に CD のコメント処理の WG がオンラインで行われました。(私は編集後記で書くようにパリ出張と重なったので、新しくエキスパートになった若い人に任せました。) 欧州で行われている「リファレンススケール法」と「インパクトパスウェイ法」の二つを、LCA の 4 つのフェーズにあてはめる作業を行っているのですが、もともとの発想が違う方法なので、うまくまとまったとは思えません。こういう時は、まずは TS (技術仕様書) として発行し、しばらく使ってみて IS (国際標準規格) に格上げする作業を始めればよいと思うのですが、どうしても IS にしたい人たちがいます。次回に DIS にするかどうかが決定されます。

○ISO14064-1（組織における温室効果ガスの排出量及び吸収量の定量化及び報告のための仕様並びに手引き）に「削減貢献量」を入れるために、削減貢献量の定義を決めるワークショップとWGが、1月17日(火)と19日(木)に行われました。この規格はTC207/SC7/WG4で発行されるのですが、ワークショップはTC207全体に参加が呼びかけられています。コンビナーのRomainさん(フランス)に聞くと、削減貢献量の概念がTC207全体で受け入れられるように、慎重に進めたいと言うことでした。まだまだ時間がかかると思います。

■■ LCAFからのお知らせ ■■

- ・「LCAF : LCA 初級検定」を2023年2月4日(土)に行いました。公開している過去問が勉強に役立っているようです。現在、採点中ですが、平均点は高そうです。
- ・「LCAF : LCA 中級検定」を3月4日(土)に行います。過去2回の問題と解説をホームページに公開しています。事前の勉強に活用してください。

■■ 編集後記 ■■

3年ぶりにパリに来ました。手帳を見るとコロナ前の最後の海外出張が2020年1月です。コロナでどれほど変わっているかと思っていましたが、入国審査も街の様子も全くコロナ前と同じです。中国からの観光客が少ない印象がありますが、その分、韓国からの観光客が多いように思います。メトロでもマスクをしている人は時々見る程度です。印象としては、マスクをしている人はコロナにかかっている人か？と心配になるくらいです。日本ではまだマスクをしているということは、日本はフランスと比べて医療体制が弱いのでしょうか？

海外に出ると、日本との違いが目につきます。そして、日本のことを良く考えます。ニュースの切り取り方も違います。良くも悪くも、人は皆、置かれている状況の中でしか考えることができないのだと思います。

今回の出張では、フランスのLCA界での重要な人に会いました。ISO14064-1のコンビナーのRomainさんが削減貢献量を(慎重に)進めているように、ISOでは日本と非常に近い立場をとることが多い国です。しかし、フランスは原子力を持っているので、エネルギー資源が何もない日本とは、特に水素についての戦略に大きな違いがあると思います。

フランスは、GHGを含む環境負荷の削減貢献量を算定する企業の支援事業を展開しています。そのために、政府が資金を出してLCAデータベースを作成しています。こういう情報はインターネットで公開されているので調べればわかることですし、オンラインでも話は聞けるのですが、会ってみて初めて将来の展望(方向性)と担当者の熱意を知ることができることを今回の出張で改めて感じました。

出張報告の作成や年度末の処理がたくさんあります。今年の桜は早いでしょうか。お花見を楽しむために、もう少し頑張ろうと気を引き締めています。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本LCA推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-7

アルテール池袋608

電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp

URL : <https://lcaf.or.jp/>